

戦後日本の物流を支えた自転車「大国号」 （1953年前後）



大正時代から昭和30年代初頭までは、自転車がトラックやオートバイの代わりに物流の中心として活躍していました。この大国号は埼玉県幸手市の大国商會が製作販売したもので、その当時の運搬用自転車の姿をそのまま残しています。

数十kgという重い荷物を後ろの大きな荷台に載せるため、後輪のタイヤが前輪のタイヤよりも太くなっています。また、停止したときに自転車をしっかりと支えるために、スタンドの下部が二股になって地面に接し、その先端部には車輪が付いていて、スタンドを上げ下げしやすいようになっています。

さらに多くの荷物があるときは、リヤカーを自転車の後ろに取り付けて運びました。その取り付け装置がサドルの後ろに付いています。

自転車文化センター 谷田貝一男